

令和3年度実施

中央区

---

---

地域活性化事業交付金

---

---

事業まとめ誌



---

---

相模原市 中央区役所

# 目次

---

---



「地域活性化事業交付金」について	1
------------------	---

---

## 清新地区

・ ボッチャを通じて触れ合う多世代交流事業	2
-----------------------	---

---

## 星が丘地区

・ 災害時たすけあい事業	3
・ みんな元気に！あるき隊！	4
・ 星が丘とその周辺地域を探検・散策するマップの作成事業	5

---

## 光が丘地区

・ 防災意識の啓発と、自助・共助推進事業	6
・ 地域で子どもを見守り育てる活動事業	7
・ 子どもの交通事故を抑止する活動事業	8

---

## 大野北地区

・ 地域で祝い、地域への愛着を深める事業	9
----------------------	---

---

## 田名地区

・ 田名地区自治会加入促進（退会防止）対策事業	10
-------------------------	----

---

## 上溝地区

・ 健康スポレクひろば事業	11
・ ALL 上溝推進事業	12

## 「地域活性化事業交付金」について

地域活性化事業交付金とは、より多くの市民の参加と協働による地域の活性化を目指し、本市のまちづくりを進めてきた22の地区で展開される市民による自主的な事業に対して交付される交付金です。

### 対象事業

- |                                  |                       |
|----------------------------------|-----------------------|
| ・地域の防災・防犯に関する事業                  | ・地域の保健・健康づくりの増進に関する事業 |
| ・地域福祉の増進に関する事業                   | ・産業や観光の振興に関する事業       |
| ・環境の保護・保全に関する事業                  | ・青少年の健全育成に関する事業       |
| ・地域の文化・伝統の振興に関する事業               | ・生涯学習に関する事業           |
| ・地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業         | ・区が推進する重点事業           |
| ・その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業 |                       |

### 優先的な交付対象事業

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| ・自治会への加入促進           | ・地域における公共的な活動の担い手育成 |
| ・公共的な活動への参加者増加       | ・地域の公共的な活動団体間の連携強化  |
| ・まちづくり会議が提示した地域課題の解決 |                     |

### 交付対象とならない事業

- |                                                   |
|---------------------------------------------------|
| ・政治活動、宗教活動又は営利活動を目的とする事業                          |
| ・交付申請を行う年度において、相模原市が実施する他の補助制度等の対象となる事業           |
| ・政策提案又は講座等の開催を主たる目的とする事業                          |
| ・調査、研究を主たる目的とする事業。ただし、地域の活性化に資する事業に繋がる計画があるものを除く。 |
| ・第三者への事業促進を求める事業                                  |
| ・前各号に掲げるもののほか、区長が適当でないと認める事業                      |

交付金の申請者は、原則として交付金の趣旨に合致する事業を行う5人以上の構成員で組織される団体とします。申請にあたっては、事業を実施する地区のまちづくりセンターへご相談ください。

当該年度の事業実施期間は、4月1日から翌年3月末とします。また、同一の事業に継続して交付する場合については、3年を限度とします。

交付金は、次の経費を交付対象とし、その交付率は10分の10以内とします。

- |                                                            |
|------------------------------------------------------------|
| ・事業に要する消耗品費、郵便代等の通信費、印刷製本費等                                |
| ・事業を行う上で必要な食糧費（交付対象者の構成員に対するものを除く。）、<br>備品購入費、施設使用料、備品借上料等 |
| ・事業を行う上で必要な施設等の光熱水費等                                       |
| ・事業を行う上で必要な委託費等                                            |
| ・イベント等の開催時に掛ける保険料、警備費等                                     |
| ・講演会等の講師に対する報償費                                            |
| ・研修会の旅費等、研修に要する経費（交付対象者の構成員個人の資質向上に対するものを除く。）              |
| ・その他事業遂行に必要な経費であって区長が必要と認めるもの                              |

備品（物品等で1件1万円以上の財産）にかかる経費の交付率は、対象経費の3分の2以内となります。

# ポッチャを通じて触れ合う多世代交流事業

清新地区多世代交流促進会

## 1 背景と目的

少子化が急速に進んでいる中、子供たちの生活環境がスマホ中心の生活になってきており、地域において人と触れ合う機会が少なくなっている。

一方、超高齢化社会の中、高齢者においては、隣近所であってもコミュニケーションをとる機会が少なくなることにより、人間関係が希薄化し、地域の中での孤立化が課題となっている。

このポッチャを活用して、障害の有無も含めた多世代の交流による地域での人と人のつながりを強化したい。

## 2 内容

講習会・スポーツの集いの開催

各種媒体によるPR活動

地域の公共的な活動団体（地区社協、地区健全協、公民館、PTA等）との連携活動

総事業費：85,244円

うち交付金額：57,000円

## 3 成果と今後の展望

3年目の継続事業となる。今年度の地域活性化事業交付金申請前となるが、清新中学校の全校生徒にポッチャの体験教室を体育館で行った。（令和3年6月1日～6月3日）

また、小山小学校からの要望により、ポッチャの貸し出しを行った。（令和3年9月18日～9月25日）コロナ禍のため、高齢者等との接触はできなかったが、誰でも参加できるポッチャの体験を通じて、子供から高齢者までが触れ合える地域づくりの場の構築に向けて進んでいると思う。

地域活性化事業交付金の事業としては今年度で終了する。来年度は地域の活動団体と連携し、ポッチャの大会や講習会を開催したい。



中学校体験授業の様子

### （参考）実施経過

実施日	参加人数	内容
11月26日	2人	ポッチャ検討会の開催
1月11日	-	ポッチャ2セット、ミニポッチャ1セット購入
2月20日	-	公民館ポッチャ大会 （新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止）
3月17日	2人	来年度に向けて、事業の話し合い

# 災害時たすけあい事業

星が丘地区災害時たすけあい会（会員36名）

## 1 背景と目的

近年、高齢者の単身世帯等が増加する中で、災害時に不安を抱える方も多くなってきている。

そのような状況に伴い、星が丘地区では平成27年度から地区独自に災害時たすけあい事業を実施し、要援護者の避難支援体制を構築したが、毎年度、自治会長や民生委員児童委員の変更等がある中で、事業の認知度や、要援護者名簿の更新等が十分ではないという課題がある。

事業内容の案内チラシ等を作成し、星が丘地区の災害時の避難支援体制について改めて周知するとともに、要援護者及び支援者の見直しをすることで、住民が安全・安心に暮らせる一助とする。

## 2 内容

- 星が丘地区の住民に対し、事業の案内チラシを配布し、事業内容を周知する。
- 災害時の要援護者及び支援者の見直しをし、災害時の避難確認を行う体制を再構築する。
  - ・自治会員...自治会回覧等を通じて全戸配布する。
  - ・非自治会員...民生委員を通じて案内する。
- 今後は年に1度、要援護者及び支援者へ通知を送付し、避難支援体制の確認を行う。

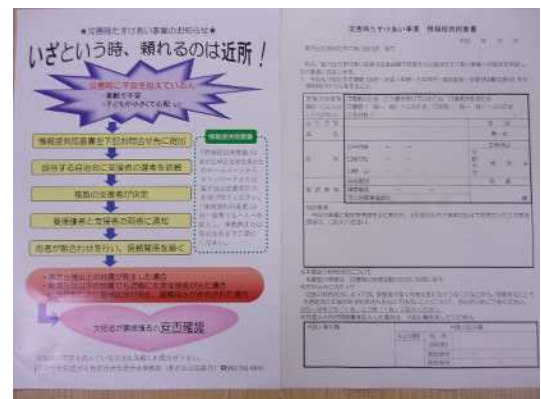
総事業費：119,084円

うち交付金額：114,000円

## 3 成果と今後の展望

事業の再構築を実施したことで、地区全体へ事業の周知ができたことその他、自治会及び民生委員においても、災害時の支援体制の在り方について改めて考えるきっかけ作りをすることができた。

自治会や民生委員等の会議の中で事業内容を定期的に周知するとともに、年に1度は要援護者及び支援者へ通知等を発送することにより、避難支援体制について確認・検討を継続する。



チラシ・情報提供同意書

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
5月～6月	星が丘公民館	36人	自治会連合会役員会、自治会長会議、自治会長・民生委員合同会議にて事業の検討
10月1日～	星が丘地区内	—	たすけあい事業の周知を開始 (自治会回覧、自治会連合会HP、民生委員等による案内)
12月～	星が丘地区内	6名	要援護者名簿の受領、自治会へ支援者の選考を依頼
1月～	星が丘地区内	16人	要援護者・支援者台帳の作成、要援護者及び支援者へ通知を送付

# みんな元気に！あるき隊！

みんな元気にあるき隊実行委員会（会員10名）

## 1 背景と目的

新型コロナウイルス感染症の影響により中長期に亘り外出を自粛するなど、運動不足によって身体的な健康を脅かすことや認知症の発症リスクが高まることが懸念されている。

そのため、ウォーキングを行うことにより、地域住民の健康増進やフレイルの予防を図る。また、地域のさまざまな人が星が丘地区やその近隣のウォーキングを行い、新たな魅力などを発見することで、まちづくりについて考えるきっかけとなり、新たな地域の担い手となることや、住みやすいまちづくりに繋げることを期待する。

## 2 内容

○目標シートにて個人で目標を設定し、自己評価を行いながらウォーキングを実施し、目標シートを星が丘地域包括支援センターへ提出する。

○ウォーキング後は、次の目標シートを受け取り、引き続きウォーキングを行うなど、継続して健康管理を行う。

総事業費：91,250円

うち交付金額：90,000円

## 3 成果と今後の展望

コロナ禍の中、人と集まらず個人で歩くため、地域住民が気軽に参加し運動不足を解消していたことができた。

また、周期を決めて歩いた歩数を確認し、更には参加賞をもらえることも励みになるという声もあり、継続してウォーキングしていただくことができた。

次年度以降も、継続して事業を実施していく予定である。



ウォーキング  
の報告をしてい  
る様子

目標シート



### （参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
5月～9月	星が丘 公民館等	8人	地域包括支援センターと定期的な打合せ
9月	星が丘地域包括 支援センター	4人	参加賞品袋詰め
10月1日～	星が丘 地区内等	（R3年度 事業参加者 121名）	事業開始
11月～	星が丘地域包括 支援センター	8人	地域包括支援センターで参加者に対し達成賞としてスタンプを押印 4、8、12週等に参加者に対し景品を渡す

# 星が丘とその周辺地域を探検・散策するマップの作成事業

星が丘周辺の地図を作成しその活用を進める会（会員8名）

## 1 背景と目的

令和2年度に散策マップを5,000部作成した。マップを手にとった方からは「案内文がとても暖かくどんどん読み進めてしまう。」などの声をいただいております、大変好評である。

マップは自治会員へ全戸配布をしたほか、他の地区の方からも依頼を受け配布し、在庫が残り少なくなってきている現状である。

そのため、マップを増刷し新たな事業等において配布し活用することにより、健康作りに役立つ。また、地域に対する興味を広げ、様々な世代がまちづくりへの関心を持つことに繋げる。

## 2 内容

○星が丘地域とその周辺の歴史や様々な情報を表したA1判の地図を2,000部増刷する。  
(人口等のデータは更新する)

○令和3年度に実施する「みんな元気に！あるき隊！」の参加者へマップを渡す。その他に星が丘公民館へ配架し、希望者へも随時配布する。

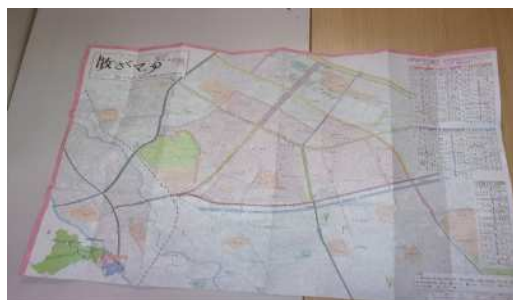
総事業費：333,587円

うち交付金額：333,000円

## 3 成果と今後の展望

マップ利用者からメール等が寄せられ、マップ活用の様子を聞くことができ、地域を知ることに関与していることを感じた。また、他の地域からも利用要望があったことなど、私たちの活動が広い地域でも役立っていると感じた。

次年度以降も会の活動を続け、イベント等のお手伝いをしたいと考えている。



星が丘散策マップ

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
7月～8月	星が丘公民館	8人	マップの増刷及び修正事項の検討
8月中旬	星が丘公民館	8人	印刷会社へ原稿を入稿。以降、校正を繰り返しながら作成を進める。
9月2日	星が丘公民館	8人	マップ完成・配布等確認
10月	—	8人	中央区内の公民館へマップ配布
3月	—	2人	市内の公民館へマップ配布

# 防災意識の啓発と、自助・共助推進事業

光が丘地区の防災を進める会

## 1 背景と目的

光が丘地区は住宅密集地であるが、新耐震基準を満たしていない家屋も数多く存在する。また、消防等の救助活動を阻む狭隘道路も多いことから、大規模地震等が発生した際には、本地区においても、阪神淡路大震災や東日本大震災に匹敵するほどの、激甚かつ凄惨な被害が予想される。

しかし、この事実を正しく認識し、備えている地域住民は少ないと感じており、地域防災や「自助・共助」の重要性に対する認識を高めていく必要がある。

また、大規模災害発生時において、地域住民の安否確認をどのように行うかが課題となっている。

## 2 内容

・令和元年度に作成した「黄色い小旗」を追加作成し、新規自治会加入者および小旗を破損された方などへ配布を行い、大規模災害時において玄関先など外から見やすいところに掲示してもらうことにより安否確認を行うための訓練を行う。

・防災に関するチラシを作成し、自治会員および非自治会員への配布、啓発を行うことで地域防災の重要性と自助の必要性に対する地域住民の認識を高める。

総事業費：657,982円

うち交付金額：657,000円

## 3 成果と今後の展望

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、地区内一斉に訓練を実施することはできなかったが、各自主防災隊ごとに黄色い小旗訓練を実施することで災害への危機感を持ち、災害発生時における地域コミュニティの重要性についてあらためて認識してもらう機会になった。

防災と健康を結び付けた啓発チラシを作成し、全戸配布したことで、防災をより身近に考え、災害に対して備えていただくきっかけになったのではと考えている。

自助・共助の重要性への認識を深めてもらい、更なる防災意識の高揚を図るためには、継続した取り組みを行うことが大切であると考えており、今後も地域コミュニティの根幹である自治会への加入促進とともに推進していきたい。

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
9月～11月	-	-	「黄色い小旗」安否確認訓練の実施に伴い、黄色い小旗及び黄色い小旗の説明等を記したチラシを追加作成し、配布した。
10月～1月	地区内 全域	約5000人	各防災隊にて黄色小旗訓練を実施した。
2月～3月	-	-	防災に関する啓発チラシを作成し、地区内に全戸配布した。



黄色い小旗・防災啓発チラシ



# 地域で子どもを見守り育てる活動事業

光が丘地区こども応援団

## 1 背景と目的

共働き世帯の増加に伴い、保護者が帰宅するまで子どもだけで過ごす家庭が多くなり、放課後の子どもの見守りは犯罪や交通事故防止のため、大変重要となっている。また、児童を標的にした犯罪や自転車事故等は依然として数多く発生し、保護者は子どもたちを自由に外出させることや、子どもたちの居場所が少ないことに不安や不便を感じている。

見守りの目を増やし、子どもがより安全に安心して暮らせる地域を目指すため、学校の登下校以外の時間帯の子どもの安全（犯罪、事故を防ぐ）を確保することを目的とする。

## 2 内容

- ・地域住民にご協力いただき、犬の散歩時に合わせてパトロールを実施する「わんわんパトロール」事業を立ち上げる。事前に飼い犬を登録していただき、不審者への警戒を促すとともに、飼い主同士のネットワークを広げ、地域の活性化に繋げる。
- ・課題や対策に応じ、必要な知識や実践方法を学ぶための研修会を開催する。

総事業費：430,884円

うち交付金額：380,000円

## 3 成果と今後の展望

子どもの見守りに気を配りながら犬の散歩をすることで不審者への警戒を促し、犯罪の抑止力につながっていると考える。また、飼い主同士で仲間意識が生まれ、情報交換やコミュニケーションを通じ、交流のネットワークが構築されることで、地域の活性化にも繋がった。

パトロール隊への参加希望者は今も増えつつあり、幅広い世代の方に、無理なく見守り活動を広げながら、安心安全な地域づくりの一端を担うことができた。

継続的に登録会を実施することでわんわんパトロールの協力員を増やし、気軽にパトロールに参加できることを広めていきたいと考えている。



わんわんパトロールグッズ

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
6月27日	光が丘公民館	会員 15人 一般 3人	活動実践講座「今こそ大切！続けていこう感染対策。コロナに負けるな！」
10月10日	光が丘公民館	会員 7人 登録者10人	第1回わんわんパトロール登録日
11月24日	光が丘公民館	会員 7人 登録者12人	第2回わんわんパトロール登録日
12月26日	光が丘公民館	会員 6人 登録者 7人	第3回わんわんパトロール登録日
10月～3月		-	隊員によるわんわんパトロールの実施

# 子どもの交通事故を抑止する活動事業

光が丘子どもを守る会

## 1 背景と目的

歩行中の小学生の事故は飛び出しに起因するものが多く、飛び出しによる事故は低学年が多い統計も出ている。光が丘地区内においても、実際に子どもと自動車の交通事故が発生しており、子どもの飛び出しが日常多発している現状を伺った。

子どもの遊び場（公園等）から公共道路への飛び出しの危険を周知し、理解に導くことで交通事故を抑止することを目的とする。

## 2 内容

- 光が丘地区内にある公園、児童館、こどもセンター、子ども広場等の出入り口付近や過去に子どもの飛び出し事故が発生した場所に飛び出しを注意する看板を設置する。
- 地区内の小学校へ依頼し、看板設置および飛び出しに関する注意を子ども達にお話しいただき、交通安全の意識を持ってもらえるよう働きかける。

総事業費：210,011円

うち交付金額：210,000円

## 3 成果と今後の展望

光が丘地区内にある公園やこどもセンター等に飛び出しを注意する看板を設置することで、子どもに対して交通安全の啓発を行うことができた。

また、小学校の生徒への飛び出し事故に関する啓発活動や、光が丘地区自治会連合会をはじめとする地区内の団体へ看板設置の周知を行うことで、地域が一体となり、交通安全の意識をもってもらえることができたと考える。

地域住民における交通安全への意識の向上と、交通事故抑止に繋がる具体的な活動を継続していく事が重要と考えており、住民の方の意見を聞きながら、看板の設置場所についても検討を重ねていきたい。



飛び出しを注意する看板

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
3月9日	-	-	単位自治会へ啓発チラシの配布、地域情報紙に活動内容の掲載を行った。
3月14日	地区内の小学校	2人	光が丘地区内の4小学校を訪問し、チラシの配布と子どもへの周知を依頼した。
3月19日 ~26日	光が丘地区内	延べ46人	公園、こどもセンター等40か所に71枚の看板を設置した。
3月23日	地区内の保育園	4人	保育園及び幼稚園を訪問し、周知用のポスター掲示の依頼を行った。

# 地域で祝い、地域への愛着を深める事業

## ～ 青山学院大学箱根駅伝優勝報告会 ～

青山学院大学箱根駅伝優勝報告会実行委員会

### 1 背景と目的

少子高齢化、人口減少社会を迎える中で、これからも魅力にあふれ、心豊かに暮らせる地域となるためには、地域に暮らし、学び、働くすべての人が協働して地域づくりに取り組む必要がある。

大野北地区では、従前より、同地区内にある青山学院大学、麻布大学、桜美林大学などと連携し、自治会・商店街・学生など、地域に集う人々の協働による魅力あるまちづくりに取り組んでいる。

まちづくりの仲間である青山学院大学が東京箱根駅伝往復大学駅伝競走で2年ぶり6度目の総合優勝を果たした快挙は、共に地域で活動する全ての住民や学生にとっての誇りであり、自らのこととして喜び、地域全体で祝福することにより、大野北地区のまちづくりへの機運をさらに高め、全ての人々が心をつなげて、地域に誇りを持ち、愛着を深めるための取り組みを一層推進することを目的とする。

### 2 内容

- ・優勝報告会・・・主催者、来賓あいさつ 青山学院大学陸上競技部 優勝報告
- ・パレード・・・地域代表、監督、選手によるパレード  
(新型コロナウイルス感染拡大のため中止)

総事業費：363,000円

うち交付金額：363,000円

### 3 成果と今後の展望

事業実施の決定から事業当日までの準備期間が短期間であったが、地域の方々が自らのこととして喜び、地域全体で祝福したい思いを共有できたことにより、多くの地域団体、地域の方々が一丸となって準備を進めた結果、大勢の方から事業当日の運営協力を得ることができた。

コロナウイルス感染拡大の影響で事業は中止となったが、地域が一丸となって準備を行えたことは、地域の結びつきをより一層強める機会とすることができた。

#### 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
1月7日	大野北公民館	12人	大野北地区自治会連合会臨時役員会
1月7日	大野北公民館	5人	大野北地区まちづくり会議役員会
1月7日	大野北公民館	7人	青山学院大学箱根駅伝優勝報告会実行委員会
1月11日	パレードコース	5人	開催チラシ配布
1月13日	パレードコース	3人	中止チラシ配布

# 田名地区自治会加入促進（退会防止）対策事業

田名地区自治会加入促進（退会防止）対策部会

## 1 背景と目的

田名地区では、自治会加入率の低下によって、老人会や社会福祉協議会等の地域活動団体の活動にも影響が生じてしまうことを懸念し、まちづくり会議においても「自治会加入率の低下をまち全体の課題」として取り上げているところである。

そのため、田名地区自治会連合会の専門部会として、田名地区自治会加入促進（退会防止）対策部会を設置して各種事業を行った。

## 2 内容

田名地区情報サイト「たななび」の改修  
自治会加入促進リーフレットの作成  
その他目的達成に必要な事業

総事業費：1,041,943円

うち交付金額：1,040,000円

## 3 成果と今後の展望

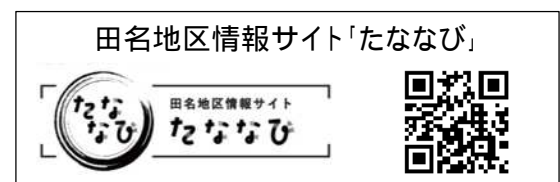
作成したリーフレットを活用して、自治会未加入者や転入者に田名地区の自治会活動を周知して、加入促進を行った。なお、外国人が多く居住している自治会区域もあるため、外国人向け（英語版）のリーフレットを作成したことで、外国人住民に対して自治会加入を促進できるようになった。

必要があれば、英語だけでなく、多言語のリーフレットの作成を検討したい。

また、ホームページについては、自治会関係だけでなく他の地域活動団体の紹介や田名地区の観光情報、イベント情報等を発信することが出来るようになった。自治会加入促進という視点だけでなく、田名の魅力や役立つ情報を積極的にホームページで発信することで、田名地区のことや地域活動団体のことを広く周知していきたい。

### （参考）実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
12月中旬	-	-	リーフレット作成・配布 日本語版 6,000部 英語版 1,000部
3月	-	全自治会	自治会加入促進キャンペーンの実施 (リーフレットの配布)
3月中旬	-	-	新ホームページ運用開始
3月	-	-	地区内団体へ新ホームページの紹介 地区内の団体へ情報発信の依頼



# 健康スポレクひろば事業

上溝地区社協サロン活動部会

## 1 背景と目的

高齢化の進行に伴う課題への対応や、地域活動への参加者の増加を図るため、住民が楽しんで参加できる「レクリエーションゲーム」や「ニュースポーツ」などを指導できる人材を育成することにより、普段あまり運動に親しんでいない高齢者の健康寿命の延伸や、地域活動の活性化に寄与する。

## 2 内容

24名を対象に全7回の「健康スポレクひろば」を開催し、人材育成を図る。

開催期間 令和4年1月21日（金）から令和4年3月18日（金）

開催時間 午前10時からの約2時間

開催場所 上溝公民館

総事業費：590,779円

うち交付金額：438,000円

## 3 成果と今後の展望

新型コロナ対策のまん延防止等重点措置の中で開催も危ぶまれたが全7回が無事終了した。しかし、コロナ禍のためか、初日からキャンセル者が相次ぎ出席率は低かった。ただ、参加者全員からとても楽しかったとの声が聞かれ、次年度の開催を熱望された。指導者からも参加者全員が喜びに溢れ、とても楽しく実施できたとの声が聞かれ、その成果は極めて大きいものであった。

開催すること自体意義のあることと感じるとともに健康寿命の増進にも役立てられたのではないかと感じる。また、新しいスポーツを体験する機会も提供できたと思う。



ひろばの様子

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
11月	上溝公民館	-	部会開催（検討）
12月～	上溝公民館	-	事業開催の周知及び参加者募集
1月～3月	上溝公民館	延べ113人 (講師等含む)	スポレクひろばの開催（7回）

# ALL上溝推進事業

上溝地区自治会連合会

## 1 背景と目的

上溝地区では、令和元年度から、地域振興イベントの開催にあたって地区内の総力をあげて取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症の影響に伴う「新しい生活様式」に則しながらも、地域コミュニティの形成に資する取組を継続して実施していくことが求められている。

地区内の団体が総ぐるみになり、四季を通じた地域振興イベントの開催などの町おこしに取り組むことにより、上溝地区だけでなく、区や市のブランドイメージの向上とシビックプライドの高揚に寄与するとともに、交流人口と定住人口の増加を促す。

また、コロナ禍においても人と人との繋がりを保つことができるような事業を展開する。

## 2 内容

地域活性化イベントの開催・参加にあたっては、自治会連合会を中心に、上溝の総力をあげて「ALL上溝」の精神で取り組む意識を醸成し、地域一丸となって上溝地区、中央区、相模原市の活性化に取り組んでいく。

毎年3月の上溝さくらまつりを盛り上げるため、上溝さくら公園入口の看板、「はるか桜」の解説盤、園内マップ、樹名札の作成を行なう。

総事業費：363,000円

うち交付金額：300,000円

## 3 成果と今後の展望

コロナ禍に伴い、「上溝さくらまつり」は開催中止となったものの、今後の開催に向けて解説盤や樹名札の設置により上溝さくら公園の魅力作りを行い、目的を達成することができた。

コロナ禍でも状況を前向きに捉え、「できることをやる」という姿勢で活動に取り組めた。

地域に親しまれる公園作りにより、上溝地区だけでなく、区や市のブランドイメージの向上とシビックプライドの高揚に寄与することができた。



樹名札と園内マップ

### (参考) 実施経過

実施日	実施場所	参加人数	内容
2月			樹名札、園内マップ等の作成
3月	上溝さくら公園		樹名札、園内マップ等の設置

M E M O

---

---

令和3年度実施

中央区 地域活性化事業交付金 事業まとめ誌

---

---

発行 令和4年5月

編集

相模原市 中央区役所

相模原市中央区中央2丁目11番15号(市役所本館1階)

お問い合わせ先

中央6地区まちづくりセンター

電話 042-707-7049 F A X 042-757-2941